

令和4年12月22日

公開質問状

山形県知事 吉村美栄子 様

鶴岡市議会議員 草島進一

(仮称) 山形県遊佐沖洋上風力発電事業の低周波音の健康被害についての公開質問状

(仮称) 山形県遊佐沖洋上風力発電事業については、現在 発電出力が最大 500,000kW (9,500～15,000kW を 36～46 基) の風車を離岸距離 1 km～5 km の海域に建設する計画が、進行中です。

地球温暖化防止の為に再生可能エネルギー普及において、洋上風力発電は大変有望なものであるという事は理解するものです。しかしながら、これまで、3000 kW 以下の風車でも 2 km 程度の隔離距離で隣県の秋田県 (21 例) など、風車騒音による睡眠障害などの健康被害が発生しています。

風車の超大型化 (発電出力 10,000kW 超, ハブ高さ 100m 超) に伴い、騒音・低周波音の影響が広範囲に及ぶ事は容易に予測でき、民家から十分な隔離距離をとる事が必要と考えます。

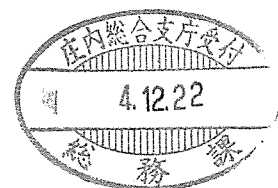
しかしながら、現状、「風車の騒音・低周波音による健康被害」を踏まえた、隔離距離について、事業者、行政、住民のリスクコミュニケーションは、全くおこなわれておりません。県は、「風車から 1km 離れば健康に影響がない」という見解を示していますが、必要な隔離距離や住民の健康を保護するために許容される風車の建設位置は、騒音の予測値と過去の科学的知見と比較して検討すべきではないでしょうか。

環境省の予算による全国を対象とした疫学研究では、1000 人余りの回答に基づき、騒音レベル 41-45dB で不眠症リスクが約 5 倍になる、という結果が得られています。また、環境省は、音響心理実験結果に基づき「心身に係る苦情に関する参照値」(10%の住民が入眠時に「気になる」レベル) を周波数別に示しています。

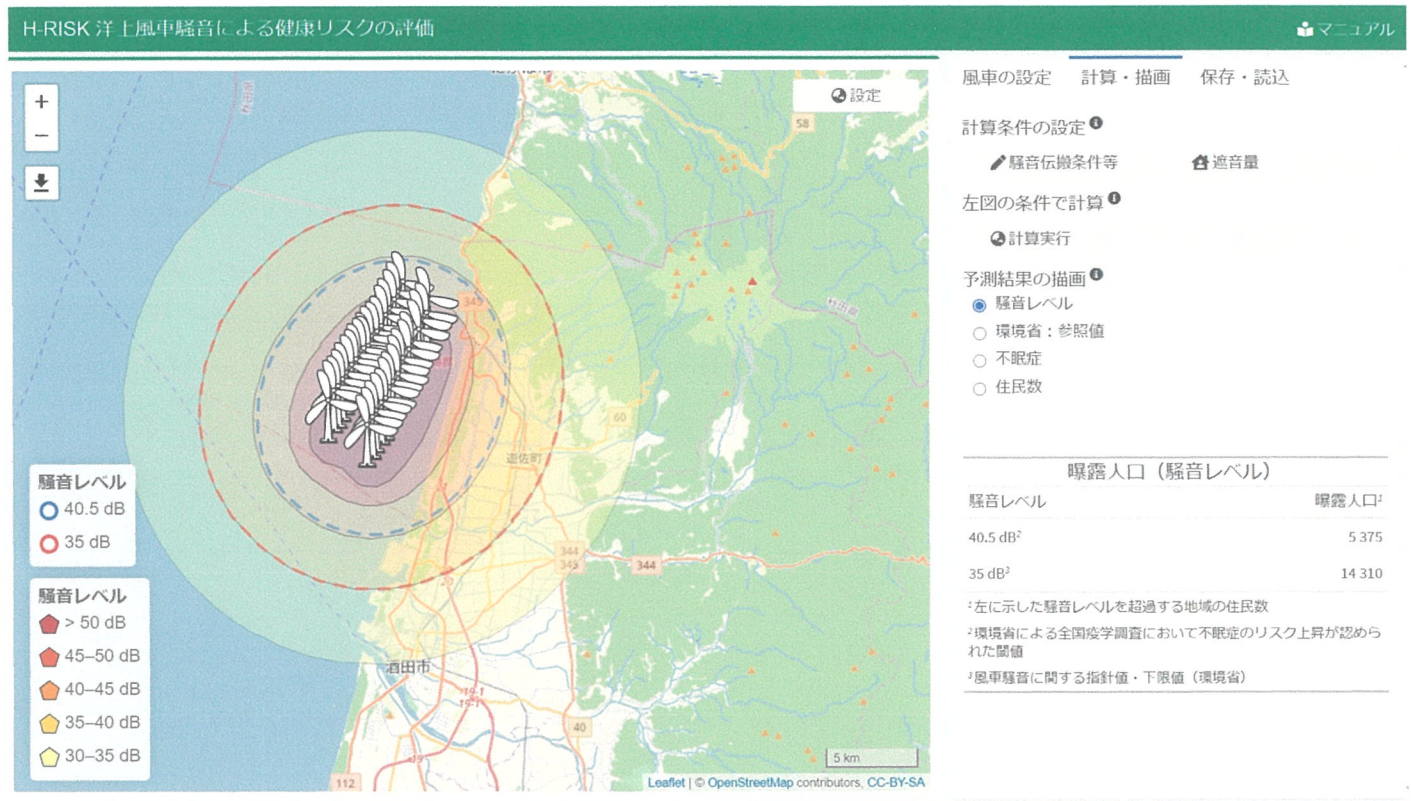
風車の騒音予測やこれらの科学的知見に基づくリスクの評価・推定について、今年、学会誌で発表されたソフトにより、一般市民でも可能となっております (田鎖順太, 鍛冶光岐, 磯嶋咲良. 洋上風車による騒音・健康リスク評価ソフトウェア「H-RISK」の開発. 騒音制御. 2022. 46. 4. 176-182)。

実際に、遊佐風力発電所で計画されている 500,000kW (9,500～15,000kW を 36～46 基) を踏まえ、秋田由利本庄市で計画されている風車、12,600kW を 36 基 予定海域にインプットして計算を試みました。最低限の試算です。

計算結果は以下となります。

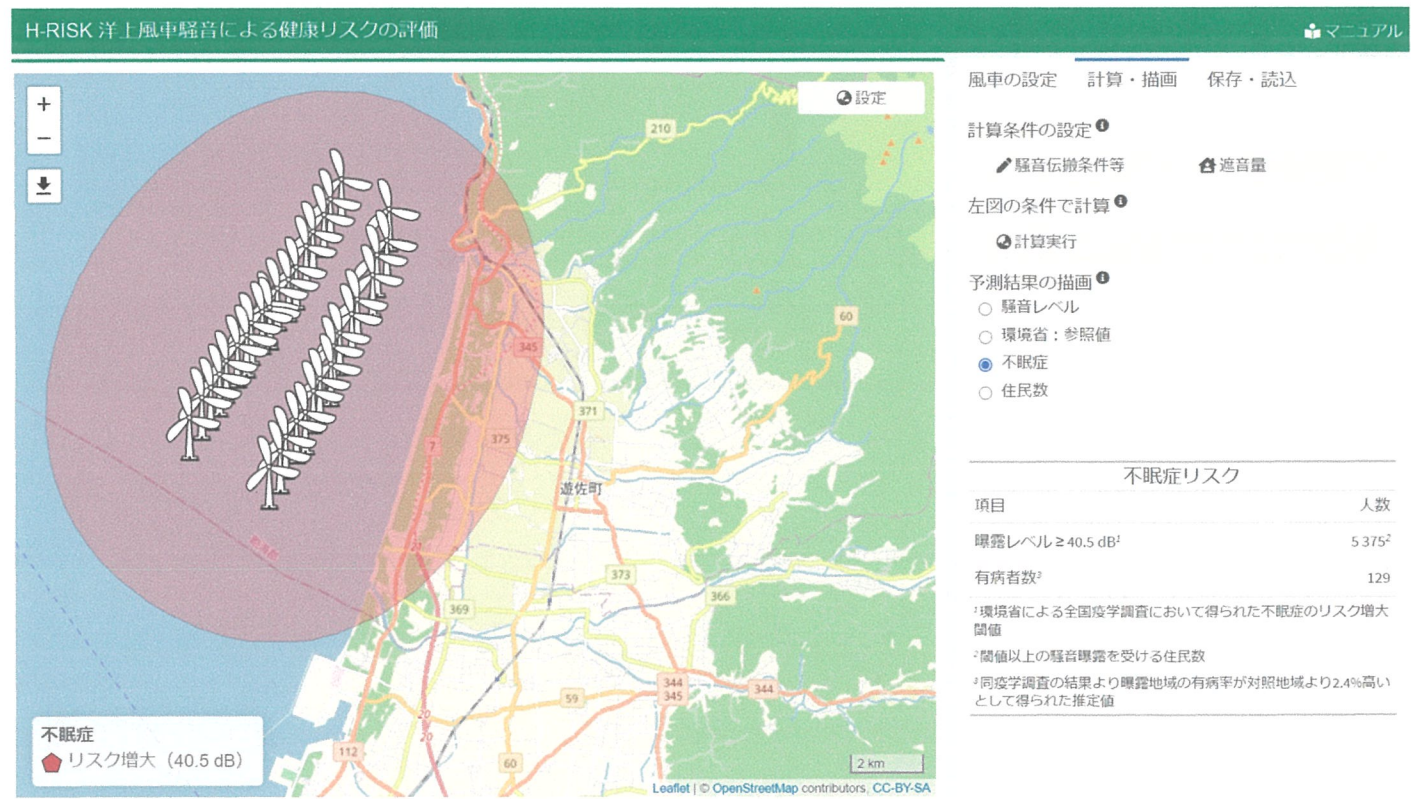


騒音レベル 40.5dB 曝露人口 5,375 人



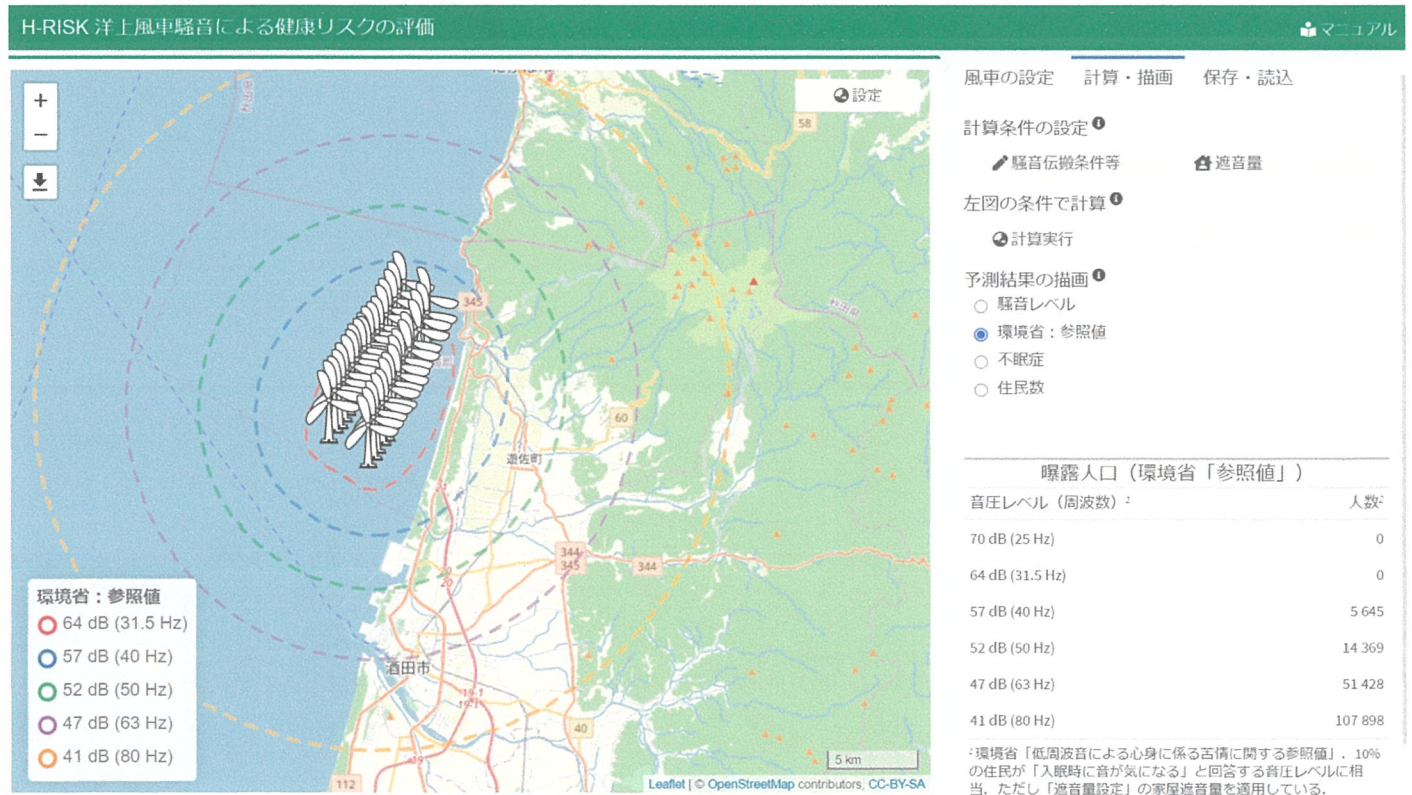
不眠症推定有病者数 129 人

これは、国内の疫学研究の知見に基づき、リスクの増加量と人口を掛け合わせて得られた値です。



屋外で環境省「参照値」を超える曝露となる人口

中心周波数 80Hz で最大であり， 107898 人。仮に，家屋の遮音量が見込めない場合には，この 10 万人のうち 10%，約 1 万人が入眠妨害を受けると推測されます。



健康被害の試算結果

(9,500～15,000kW を 36～46 基) を踏まえ

秋田由利本庄市沖と同規模 12600 kW 想定 of 最低限の風車 36 基を入力。

●不眠症推定有病者数 129 人

屋外で環境省 「参照値」 を超える曝露となる人口

中心周波数 80Hz で最大であり、 107,898 人。

仮に、家屋の遮音量が見込めない場合には、この 10 万人のうち 10%、

●約 1 万人が入眠妨害を受けると推測されました。

山形県として、この健康被害の試算に対して、どのように対処されるのか。回答を求めます。

又、事業者にも、この試算結果を伝え、どのように対処されるのか、事業者側からの回答を求めます。

以上。可及的速やかに、ご回答をお願いします。

草島進一